

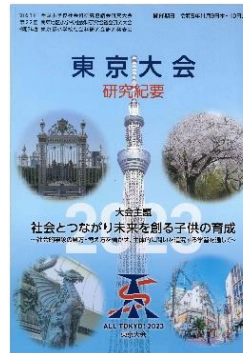
研究主題 社会とつながり未来を創る子供の育成

～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

I 団体の概要

昭和 26(1951)年の発足から 70 年間以上続く歴史ある社会科の研究団体です。現在、第 3 学年から第 6 学年まで四つの研究部会に分かれて、社会科授業の実践研究を行っています。教材開発、指導方法、評価等の実践など、各部会で年 2～3 回ほどの研究授業を中心に、部員による学び合いを深めています。

令和 5 年 11 月 9 日には浅草公会堂で、全国小学校社会科研究協議会研究大会東京大会の開会行事・全体会・記念講演会を開催しました。また、同月 10 日には、都内 4 会場（新宿区立四谷小学校、小金井市立小金井第一小学校、中央区立日本橋小学校、世田谷区立代沢小学校）で会場別研究会を実施し、全国各地から合わせて 1 6 0 0 名以上の参加者が集まりました。そして、公開授業や実践提案を基にして、これからの社会科授業のあり方について、熱心に協議し、研究を深めました。

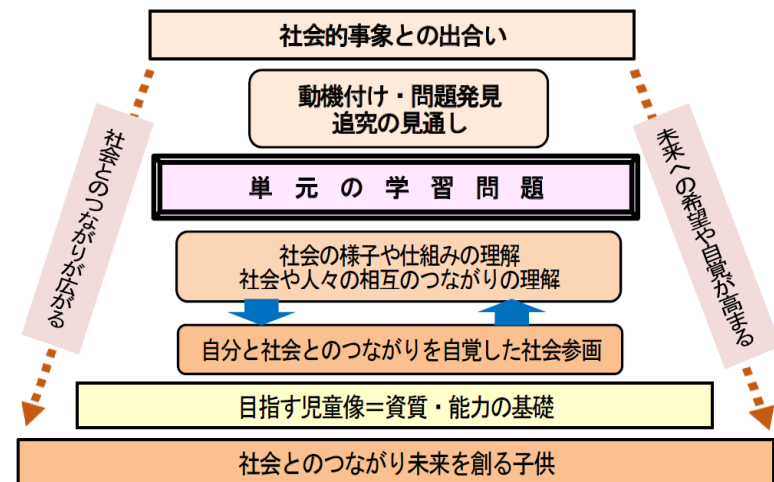


II 研究の目的

社会的事象の見方・考え方を働かせながら、児童主体の問題解決的な学習を展開し、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を統一的に育む実践を積み重ねながら研究主題（副主題含む）の実現及び理論の充実を図り、広く発信する。

III 研究の方法

教材開発や教材の分析などの単元構想の側面及び、授業づくりの手だての工夫の二つの側面から単元設計や毎時間の授業設計をし、子供の学びの様子を通して成果と課題を検証する。



IV 研究の内容

1 単元の構想

- ・社会とのつながりを意識できる教材、東京らしさやよさを感じ、都民としての誇りがもてる教材、人の営みや働きに共感できる教材を開発する。
- ・学習指導要領解説を参考に、「知識」「見方・考え方」「問い」「資料」の四つの観点から教材を分析するとともに、子供の思考の流れを想定し、単元を構想する。

2 授業づくりの手だて

①主体的に問いを追究する工夫

- ・問題意識が高まり問いが生まれる社会的事象との出合いの工夫
- ・予想や学習計画立案と子供の思考に即した問いの構成の工夫
- ・調べる対象、資料や方法を子供が選んで追究する展開や学習活動の工夫

②社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

- ・視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫
- ・比較・分類・総合・関連付けて考察する学習活動の工夫
- ・社会に見られる課題の解決や関わり方について議論し考えを高め合う学習活動の工夫

③子供の学びを確かにする評価の工夫

- ・3観点による評価計画の作成
- ・指導と評価の一体化を図るための評価の工夫
- ・子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価活動の工夫

V 研究の成果と課題

<成果>

- 東京都の特色を生かし、東京らしい教材を活用した授業を行ったことで、主題の実現に迫ることができた。
- 学習指導要領の分析等を踏まえ、単元構想図に表し、それを基に見方・考え方を働かせ主体的な学びを促す指導計画を作成、確かな理解と主体的に学ぶ態度を養う授業の具現化を図ることができた。
- オール東京の体制で令和5年度東京大会を開催し、これからの社会科授業のあり方について研究の成果を基に、全国へ広く発信することができた。

<課題>

- 理論の明確化と授業への具現化 新体制構築

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都小学校社会科研究会
代表者	所属	板橋区立上板橋第四小学校
	職 氏名	校長 和田 幹夫
	連絡先	03-3932-6317
事務局	所属	青梅市立新町小学校
	職 氏名	校長 塚田 直樹
	連絡先	0428-31-0268
団体ホームページ	URL	二次元コード
		https://www11.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350008